

令和2年度学校だより

横浜市立緑園西小学校発行



緑園西

泉区緑園3丁目39番地

Tel (811) 6030

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuennishi/>

「西小フレンドリーカップ」に向けて

学校長 立田 順一

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、今年度は多くの学校行事が中止となってしまいましたが、「西小フレンドリーカップ（運動会）」については、例年とはかたちを変えながらも、10月17日（土）に実施ができる見通しです。

日本で初めての運動会は、1874（明治7）年に東京・築地の海軍兵学寮で開催された「競闘遊戯会」とされています。また、1878（明治11）年に札幌農学校（現在の北海道大学）で開かれた「力芸会」では、現在でもおなじみの障害物競走やパン食い競走などが行われており、こちらのほうが運動会の起源ではないかという説もあるようです。いずれにしても、150年近く前から、体を鍛えたり競い合ったりすることに主眼を置きながら、楽しむことも忘れない行事であったということが伺えます。

ところで、今年度はコロナ禍のために中止となりましたが、これまで毎年実施されていた新体力テストの結果によると、全国的に小中学生の体力は1985（昭和60）年ごろをピークに低下の傾向にあるそうです。また、積極的に運動をする子どもたちと、そうでない子どもたちとの二極化も問題になっています。そして、コロナ禍による「ステイ・ホーム」が、子どもたちの体力の低下に拍車をかけている可能性もあります。

しかし、子どもたちに無理やり運動をさせたとしても、あまり意味はないでしょう。体を動かすことの楽しさや、運動をする喜びを味わうことができなければ、生涯にわたって運動やスポーツに自ら親しむことには結びつかないからです。その点でいえば、運動会は子どもたちがそうした楽しさや喜びを味わうことができる絶好の機会でもあります。

もちろん、運動会のねらいは体力の向上だけにあるわけではありません。例年、前日までの練習や準備に対して、熱心に取り組む子どもたちの姿を随所で見ることができます。そして、運動会当日も、お互いに助け合ったり、励まし合ったりしながら活動する光景が見られることでしょう。そうした体験が、子どもたちを一回り大きく成長させることにつながります。

今年度は感染症予防のため、種目数を減らして午前中のみで開催にしたり、参観人数に制限を設けたりするなど、例年とは異なる「西小フレンドリーカップ」となります。また、臨時休業等で体育科の学習が十分に実施できていない状況なども踏まえて、個人種目の「かけっこ・短距離走」については、他の児童との競走よりも「自分のめあて」にチャレンジすることを重視しています。

そうした中でも、全校が思いを一つにして取り組んでまいりますので、本番の演技や競技はもちろんですが、それ以外の場面で頑張っている子どもたちに対しても、温かいご声援をよろしく願いいたします。

